

## ■がん拠点病院推進センター

### はじめに

がん診療連携拠点病院として国からの要求を満たす以上に、がん患者さまが安心して療養できる環境作りに努めている。

### 1. 2017年度目標

#### 財務の視点

1. 強化事業費の有効運用
2. がん関連診療報酬の充実

#### 顧客の視点

1. 地域連携パスの運用

#### 内部プロセスの視点

1. がん現況報告内容の充実
2. 施設の効率的運用

#### 学習と成長の視点

1. がん関連知識強化
2. 地域医療機関勉強会の充実
3. 地域医療機関の質向上

### 2. 2016年度評価

地域がん診療連携拠点病院として、強化事業費の活用及び事業計画も予定通り遂行できた。

### 3. 業務紹介

1. 地域がん診療連携拠点病院として、大きく7つの事業項目がある。

①がん医療従事者研修事業 ②ネットワーク事業 ③がん相談支援事業 ④普及啓発・情報提供事業 ⑤在宅緩和ケア地域連携事業 ⑥緩和ケア推進事業 ⑦がん患者の就労支援に関する総合支援事業である。7事業を推進するにあたって、厚生労働省からの強化事業費を有効的に活用し管理運用している。

2. 二次診療圏内医療機関向けや院内向けの研修会（緩和ケア研修会やがん看護研修会を含む）や講演会の立案及び開催をする。
3. 地域がん拠点病院指定更新を受けるため、年1回指定要件基準を満たしていることを証明するために現況報告書を作成し、県を通し厚生労働省へ提出する。
4. がん治療棟で充実したがん治療体制が整ったので、がん診療報酬について、今後見直しを掛け、より高い報酬を得られるよう医事課担当者と共に改善する。
5. がん相談・がん登録等担当者のサポートやがん情報サイトの作成や会議の運営をする。
6. がん連携パスとして

主な目的は、地域がん拠点病院として「地域連携クリティカルパス」を計画、運用する。しかし同時に、地域でのがんに関わるすべての事柄（発症予防、早期発見、早期で質の高い治療、信頼できるフォロー、緩和医療）すべての関係者（市民、患者、公的機関、医療従事者、福祉従事者）の在り方を見直し、最適な医療・福祉を提供できる、あるいは享受できる環境を作ることも目標としている。

2010年度から「顔の見える連携」をめざし安房、館山、いすみ勝浦、茂原、君津木更津、市原まで通算計135施設の訪問を行った。地域連携クリティカルパスは2014年度までの目標をクリアすることに成功した。同時に訪問で得た地域医療機関の情報を整理し病院職員と共有するために院内ホームページを作成した。地域医療機関からの当院への要望を部長会で医師に伝え、紹介状返書のあり方、当院への紹介時連絡先の整理などの問題解決を図った。

地域連携情報を共有するための「がん地域連携パスだより」は第15号より「地域医療連携室だより」と名称を変更し毎月発行した。平成26年度からは内容を充実させ第45号より「かめだより」と名称を変更し年4回発行している。連携室の活動を知ってもらうために役立っている。

2017年2月21日には第7回地域医療連携交流会および懇親会を開催した。

テーマとして「地域包括ケアについて－第2弾－」講師として近隣の医療機関さま（亀田医療大学教授：新田静江、有限会社フローラ取締役：川名延江、山之内病院・リハビリテーション課課長：三好主晃、鋸南病院院長：金親正敏）を招聘し、実例をふまえてお話いただいた。その後に会場を変えて懇親会を行った。地域より22施設91名が参加され、院内からも加わり140名が参加した。

2017年度は、地域医療支援部と協力しながら「顔の見える連携」の推進させるため、再度の地域医療機関訪問を行っている。

地域医療機関と当院医師とのつながりを深めるため、インターネットを使った『医療連携サイト』を立ち上げた。地域中核医療機関での勉強会・交流会を通して、医師やコメディカルの交流を推進する。活動内容を目に見える形で広報していくことも大事にしていきたいと考えている。

地域医療機関と総合病院のよりよい関係構築がそのまま地域住民の安心・安全に寄与すると考え、地域の声に鋭敏に反応し対応していきたいと思っている。

7. 構成員としては、センター長亀田信介(病院長)、事務スタッフ3名で活動している。

がん拠点病院推進メンバーとしては、診療部5名、看護部2名、薬剤部2名、各専門部会のコメディカルと事務スタッフ7名合わせて16名が情報共有しながら協業している。

#### 4. 年間活動内容と実績

##### 1) 緩和ケア基礎研修会について

###### ①第11回緩和ケア基礎研修会

平成28年4月3日～4日に実施し26名が参加した。

###### ②第12回緩和ケア基礎研修会

平成28年10月1日（土）～2日（日）19名が参加した。

###### ③第13回緩和ケア基礎研修会

平成29年2月11日（土）・12日（日）41名が参加した。

厚生労働省は、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標としている。そのため、当院疼痛・緩和ケア科の蔵本浩一先生を中心に、当院に院外より講師を招き、8名のファシリテーターで実施した。

④今年度は、当院内で第14回を平成29年4月6日（木）～7日（金）入職医師対象で実施し25名参加した。10/7（土）～8（日）で実施する計画を立てている。

##### 2) 講演会

###### ①医療従事者向けとして

1)6/29 放射線治療講演会「乳がん医療機器 SAVI について」東京医科歯科大学教授

吉村亮一（31名）

2) 8/12 がんリハビリテーション講演会「転移性脊椎腫瘍の治療とリハビリテーション」  
日本大学医学部教授 徳橋泰明（44名）

3) 10/15 がん就労支援講演会「就労継続をするために知っておきたいこと～実体験から学ぶ～」社会保険労務士 近藤明美・ピアサポーター 渡邊慎介（27名）

4) 12/14 化学療法講演会「米国腫瘍内科医の立場から見た研修医へのアドバイス」米国ダートマス大学准教授 白井敬祐（23名）

5) 1/26 早期診断講演会「乳房構成からみた乳がん検診・・・超音波併用の意義」  
財団法人栃木県保健衛生事業団乳がん検診部長 阿部聡子（36名）

6) 2/28 化学療法講演会「がん患者の意思決定支援における看護師の役割」癌研究会明病院がん看護専門看護師 花出正美（33名）

② 市民向け講演会及び勉強会として、

1) マインドフルネス勉強会3回シリーズ 高野山大教授一井上ウイマラー～今という瞬間を意識的に生きる～

第1回 7/23 「医療者の燃え尽き防止のために」（28名）、第2回 10/8 「トラウマケアとマインドフルネス：告知によせて」（16名）、第3回 12/10 「臨床現場において意思決定を支えるマインドフルネス：医療者の燃え尽き防止プログラム GRACE を通して」（20名）実施した。

2) 第9回房総がんケアフォーラム

1/14 「ライフデザインノートを書いてみよう！」（24名）

3) ACP-A 疼痛・緩和ケア科や緩和ケア認定看護師・チャプレン等が講師となり開催した。

ワークショップフェーズⅠ

① 6/10 地域江見地区の民生委員・児童委員対象（26名）

② 9/26 地域東条地区の民生委員・児童委員対象（24名）

ワークショップフェーズⅡ

① 8/4 鴨川市訪問介護事業所連絡協議会対象（17名）

② 2/20 地域江見地区の民生委員・児童委員対象（24名）

3) 専門職勉強会

1) ELNEC-J ちば

① 10/29・11/12（2日間）玄々堂君津病院会場－佐藤絹代緩和ケア認定看護師・千葉医療センター-手渡和子緩和ケア認定看護師・がん研有明病院-平野和恵緩和ケア認定看護師・千葉大学医学部附属病院-藤澤陽子がん看護専門看護師・当院-千葉恵子緩和ケア認定看護師（17名）

② 1/21～22（2日間）亀田総合病院会場－佐藤絹代緩和ケア認定看護師・がん研究会有明病院-平野和恵緩和ケア認定看護師・千葉医療センター-手渡和子緩和ケア認定看護師・当院-千葉恵子緩和ケア認定看護師（17名）

2) 院外緩和ケア/エンドオブライフケア勉強会6回コース エビハラ病院会場にて

講師は院内の疼痛・緩和ケア科医師等と緩和ケア認定看護師一各50名ずつ参加した。

7/22・8/21・9/16・10/21・11/18・1/20実施した。

3) 地域のがん看護勉強会として

地域勉強会として安房地域医療センターといすみ医療センターを会場にして実施した。

- ① 安房地域看護勉強会は安房地域医療センター7/15－医療安全-基礎知識 セーフティマネージャー川洲朋美・8/9－医療安全-重大な事故対策 リハビリテーション科部長-宮越浩一・9/23－感染管理 感染管理認定看護師-古谷直子・10/21－褥瘡ケアの基本 WOC 認定看護師-小倉美輪の4回シリーズ（各21名）
  - ② 夷隅地域看護勉強会はいすみ医療センター11/17－感染管理 感染管理認定看護師-古谷直子・12/9－医療安全-基礎知識 セーフティマネージャー川洲朋美・1/17－医療安全-重大な事故対策 リハビリテーション科部長-宮越浩一・2/24－褥瘡管理 WOC 認定看護師-佐藤理子の4回シリーズ（各33名）
  - ③ 摂食・嚥下機能障害勉強会は、当院にて2/18－「安全に美味しく食べるために～認定看護師が行っているアプローチ方法を教えます！！」当院－当院-小島千沙-摂食・嚥下障害看護認定看護師-他10名の認定看護師（21名）
- 4) 厚生労働省に年1回現況報告書を提出し更新手続きを行なって問題なく更新している。
  - 5) 強化事業費をがん関係のあらゆる事業で有効的に活用できるよう管理運用している。
  - 6) がん拠点病院報告会を年間1回実施し、情報収集及び共有する場としている。
  - 7) がん診療連携協議会の各部会委員の参加促進及び会議での報告依頼をしている。

文責：亀田 信介